

製品名: UBE3B ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19534**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	123kDa

抗原情報

遺伝子名	UBE3B
別名	UBE3B; Ubiquitin-protein ligase E3B
遺伝子 ID	89910.0
SwissProt ID	Q7Z3V4
免疫原	抗血清はヒト UBE3B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 581-630

背景

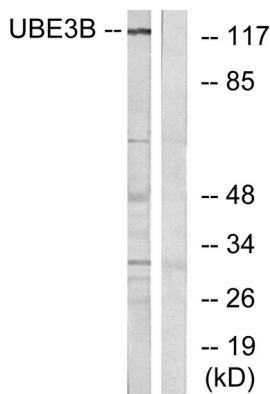
ユビキチンによるタンパク質の修飾は、異常なタンパク質や短寿命タンパク質を分解対象とする重要な細胞機構です。ユビキチン化には、少なくとも3種類の酵素、すなわち E1 ユビキチン活性化酵素、E2 ユビキチン結合酵素、および E3 ユビキチンタンパク質リ

ガーゼが関与します。この遺伝子は、E2 ユビキチン結合酵素からユビキチンを受け取り、標的基質に転移させる E3 ユビキチン結合酵素ファミリーのメンバーをコードしています。このタンパク質の長いアイソフォームの C 末端にある HECT (E6-AP C 末端に相同) ドメインは、ユビキチン転移の触媒部位であり、E2 結合酵素と複合体を形成します。したがって、C 末端 HECT ドメインを欠くこのタンパク質の短いアイソフォームは、E2 酵素と結合する可能性は低いと考えられます。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが同定されています。[機能: E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼは、E2 ユビキチン結合酵素からチオエステルの形でユビキチンを受け取り、その後、標的基質に直接転移します。]経路: タンパク質修飾; タンパク質ユビキチン化。類似性: 1 つの HECT (E6AP 型 E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼ) ドメインを含みます。類似性: 1 つの IQ ドメインを含みます。組織特異性: 広く発現しています。]

研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解;

画像データ



UBE3B 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。